島根県の希少な水生昆虫類の現状と保全

林　成多（ホシザキ野生生物研究所）

島根県には多くの希少な水生昆虫が生息しており，全国的にも注目される地域である．

2012 年に改訂された環境省の第４次レッドリスト（日本国内で絶滅のおそれのある野生生物の目録）において，昆虫類では水田や池などに生息する水生甲虫類の掲載種が増加した．これは，全国的に水生甲虫類の生息状況が 2007 年公表の第 3 次昆虫類レッドリスト以降，悪化した可能性を示している．島根県では，全国的に減少しているとされる種の中で，多くは現在でも安定的に生息していることが認められている．このことは，島根県内の陸上の水域環境が比較的に良い状況で保たれていることを示している．例えば，第４次レッドリストに準絶滅危惧として新規掲載されたケシゲンゴロウ・マルチビゲンゴロウ・キベリクロヒメゲンゴロウ・クロゲンゴロウ・オオミズスマシ・ガムシなどの水生甲虫は，現在でも多く生息が認められ，2014 年に発行された島根県版のレッドデータブックには掲載されていない．

しかし，すべての水生昆虫類の生息状況が安定しているかと言えば，実際には危険な状況が増大している種も存在する．2000 年頃までは県内に多くの生息地があったタガメやゲンゴロウは減少の一途をたどっている．県外での主要な減少原因としてブラックバス・ブルーギル・アメリカザリガニの生息地への進入が指摘されているが，島根県内ではそれほど顕著には認められない．また，全国的に減少が指摘されている赤トンボ（アキアカネ）も平野部では秋に大群をみることがなくなっている．減少の要因として，主要な繁殖場所である水田での繁殖が困難になっていることがあげられる．その理由として水管理方法の変化や農薬の変更が影響していることが指摘されている．

一方，出雲地方のオオマルケシゲンゴロウやホテイコミズムシ，隠岐のアンピンチビゲンゴロウ，などは近年になって県内から確認された希少種であり，その分布の状況から注目される種である．

クロゲンゴロウ